地場産物及び 環境に配慮した農産物の 利用促進に向けた取組について

令和6年9月26日(木)



公益財団法人宮城県学校給食会 食育安全課 主事 髙梨 絵里香

- ▶学校給食会とは
- ▶学校給食会の取組方針
- ▶学校給食の現状と課題
 - (1) 学校給食の現状
 - (2) 地場産物活用の取組及び課題
 - (3) 有機農産物活用の取組及び課題
- ▶各道県学校給食会との連携

1 学校給食会とは

学校給食の物資を安定的に供給すると共に学校給食に物資を提供する委託加工工場等の職員の資質向上のため研修会等を行い、また、学校給食に携わる学校栄養職員等の組織への助成支援、調理加工場への衛生検査機材の貸出し等を通して、円滑で充実した学校給食の実施を支援する事業を行っております。

▶ (1)学校給食用物資の安定供給に関する事業

基本物資(パン・米穀・牛乳)、一般物資(食材)の供給。

- ▶ (2)学校給食の充実と食育の推進の支援に関する事業
 - ①学校給食の充実の支援

パン品質審査会の開催、広報誌の発行、展示会の開催、オードブル皿等の貸出し等

②学校給食における食育推進の支援

学校給食関係団体への助成、関係機関との共催事業、食育教材等の貸出し等。

▶ (3)学校給食物資の安全確保及び衛生管理に関する事業

細菌検査等自主検査の実施、委託工場への立入検査・衛生指導、衛生検査機材の貸出し等。

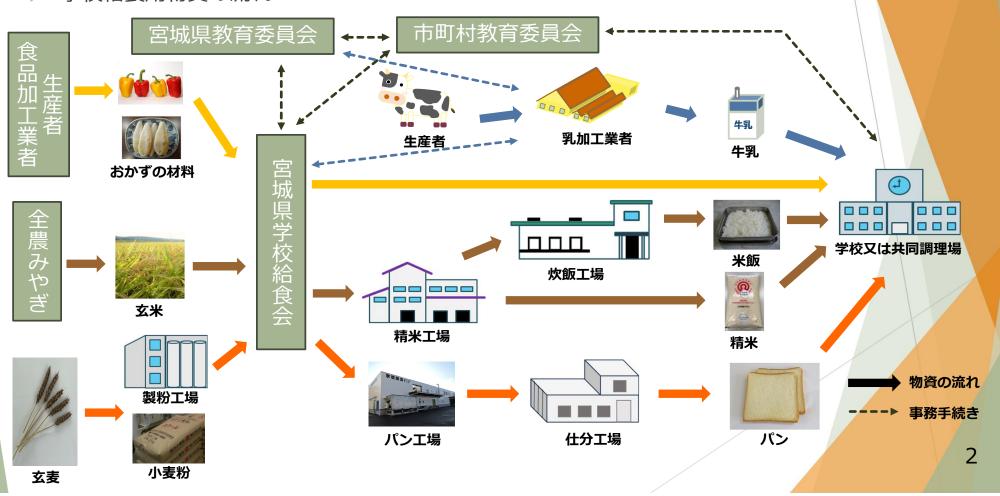
▶ (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

施設貸与事業、災害対応用食品の備蓄、宮城県の事業への協力事業等。



1 学校給食会とは

▶ 学校給食用物資の流れ



2 学校給食会の取組方針

▶ 経営計画「2020」(令和2年4月1日~令和7年3月31日まで)

私たちは、全ての行動を経営理念に基づくものとし、経営理念の具現化に向け一丸となり邁進しております。 また、経営理念を実現するために、目指すべき姿をビジョンとして、職員がとるべき行動を行動指針として 定めております。

▶ スローガン

子どもたちの「未来!」のために

▶ 経営(基本)理念

私たちは、学校給食を支援する県唯一の公益法人として、食材王国みやぎの豊かな食材を活用した給食・食育への支援を通じ、子どもたちの健やかな成長に寄与します。

▶ 経営ビジョン

私たちは、将来にわたり安全・安心な学校給食用物資の安定供給に努め、給食への想いが世代を超え、語り継がれるよう誰からも愛され、信頼される学校給食会を目指します。

▶ 行動指針

私たちは、

- ・子どもたち「ファースト」で行動します。
- ・安全、安心を最優先に考えて行動します。
- ・チャレンジ精神とスピード感をもって行動します。
- ・社会的良識に従い、誠実に、感謝の気持ちを忘れず行動します。

▶ (1)学校給食の現状

農林水産省の「第4次食育推進基本計画」や宮城県の「第4期宮城県食育推進プラン」を基に、地産地消や環境(SDGs)に配慮した食育活動が、学校教育においても実施されている。

本会が供給する基本物資(パン・米穀)や一般物資(食材)についても、地場産物の活用をはじめ、食育活動に用いられる食材を積極的に取り扱っています。

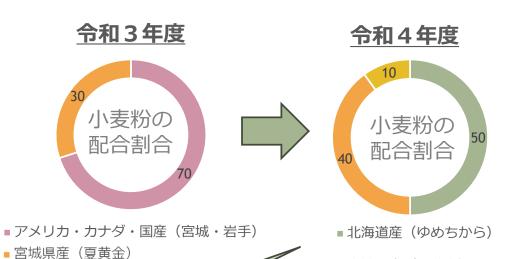


▶ (2)地場産物活用の取組及び課題

①学校給食パン用脱脂粉乳及び小麦粉の国産化の取組 脱脂粉乳は、令和3年4月に外国産から国産へ切替。







【背景】

パン用小麦粉取扱い数量 令和5年度 約509t(県産麦255

約509t (県産麦255t弱)

令和4年度

約511t (県産麦260t弱)

【今後の課題】

小麦粉以外の原料に地場産物を 取り入れたパンや栄養強化等多様化する ニーズに合わせたパンの開発

100%国産化

- ・夏黄金の作付け増加
- ・地場産物活用拡大の取組

■ 宮城県産(夏黄金)

■ 宮城県産(シラネコムギ)

・ 食料自給率向上の取組

- ▶ (2)地場産物活用の取組及び課題
 - ①学校給食パン用脱脂粉乳及び小麦粉の国産化の取組



試作中のパン(仮称)

食物繊維強化パン 米粉ずんだパン 米粉みそパン



令和5年度制作



- (2)地場産物活用の取組及び課題
 - ②学校給食用米穀の取組

米穀供給方法

精米



1食方式



食缶方式



みやぎ米飯学校給食支援方式加入 34市町村 (R6.8月現在)

「宮城県産ひとめぼれ1等米」

- ☆県内同一価格にて供給
- ☆可能な限り「市町村米」の供給
- ☆令和2年11月(令和2年産米)から 環境保全米(特別栽培)を可能な限り供給

令和5年度の玄米取扱量

約2,014 t (內環境保全米1,532 t)

【今後の課題】

仙台市などの大きい市町村で年間通して 環境保全米の提供を行う

- (2)地場産物活用の取組及び課題
 - ③一般物資(おかずの食材)の取組

地場産物の製品開発

給食会×各市町村

宮城県具材たっぷり 厚焼玉子 蔵王町産 里芋乱切り





気仙沼市産 トマトダイスカット



令和5年度末 地場産物割合(食材数ベース)

22.7%

(地場産物254品/総取扱品1,118品)

【今後の課題】

宮城県産<各市町村単位

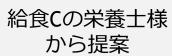
地場産品開発が求められている

→小ロットの加工品を製造できる工場が少なく苦慮



③一般物資(おかずの食材)の取組





「五目厚焼玉子の具材 が全て宮城県産だとい いね!」



枝豆、にんじん、 長ねぎ、きくらげ、 しいたけの5品の 使用を目標



にんじん、長ねぎ 仕入業者の 選定に難攻・・・┃



5 品すべての 原料調達成功!



ほうれん草での代 用を検討したが具 材を4品で試作す ることに!



枝豆の原料が入手 不可、、、。



枝豆の量を減らし て第二回試作!



冷凍加工した具材 を製造工場に送り 第一回試作!



試作が成功し 製品化決定!















(3) 有機農産物活用の取組及び課題

令和3年度~ 有機農産物の取扱開始!

ほうれん草

国産オーガニック 国産オーガニック乱切り 北海道産栗かぼちゃ



国産オーガニック タ゛イスカットミックスへ゛シ゛タフ゛ル



名取市産 有機乾燥きくらげ





【今後の課題】

- ・通常品と比較して高価
- ・生鮮野菜は多くの生産者がいるが、 多種目栽培農家が多く供給量を確実に 揃えることが困難





KPI	2030目標	2050目標
耕地面積に占める 有機農業の割合	6.3万ha	100万ha (25%)

4 各道県学校給食会との連携状況

▶ (1)北海道・東北ブロック学校給食用物資共同購入委員会

北海道、東北6県、新潟県の学校給食会では、「うずら卵水煮缶」等約20品の物資で共同購入を行い、仕入価格の抑制に努めています。

また、年2回の会議では、各道県で抱える課題等の情報共有を行っています。



▶ (2)広報誌(インフォメーション)による東北フェアの開催

本会では毎月広報誌を発行し、各学校へ季節のおすすめの食材等情報提供を行っております。

全国学校給食週間(毎年1月24日~30日) に合わせて、東北5県の学校給食会で取扱いのある地場産物等をご紹介いただき、期間限定でご案内する企画を開催しました。





ご清聴ありがとうございました



公益財団法人宮城県学校給食会

miyagi@m-kengakukyu.or.jp

HP・YouTubeは二次元コードから→



